

## 1 単元 「言葉に着目する感性を磨く～『心の揺れ』を意識した脚本を書こう～」

## 2 指導観

- 人間の一生は短く、同じ時代に生きる人との交流だけではわずかなことしか知ることができない。様々な時代の様々な立場から描かれた古典作品を読むことで考えに深みや幅ができる。つまり、古典を学ぶことは生きることにも潤いをもたらす人生を豊かにするために必要不可欠である。

本単元は、「登場人物の描かれ方に着目して作品を読むこと」ことを基として、「敦盛の最後について脚本の制作」をさせて交流する活動を通して、古典に現れるものの見方や考え方に着目しその世界観に浸り登場人物の言動や行動の意味や効果を捉えて作品を読み、自分の表現に生かすことをねらいとしている。学習内容としては、見方・考え方の異なり、効果的な音読の在り方、平家物語の世界観、歴史的な背景、人物像の捉え、物語の転換点、脚本の制作の仕方、脚本構成の在り方、台詞の役割、鑑賞の在り方などがある。本単元は、古典を読むには時代や歴史的背景に着目して読む必要があることを知り、作品のなかに人間の情動が生き生きと描かれていることに目を向けて、生徒自らが登場人物に着目して作品を粘り強く読んでいく機会にしたい。また、古典に表れている登場人物の生きざまに共感したり、疑問を抱いたりするなかで、作品に対する考えを生徒自らが持ち、「古典を学ぶ楽しさを実感できる」という点で大変意義深い単元である。

個人情報保護のため、  
生徒観は省略しています。

- 本単元の指導にあたっては、「あなたはアニメの脚本家です。『平家物語』の『敦盛の最後』の場面を手掛けています。物語を知らない人にも情景を色彩豊かに伝えるには、脚本家としてどのようなセリフや演出をすれば世界観が伝わるのか現代語訳をもとに脚本を制作しよう。」という学習課題を設定し、その時代に生きる人物の描かれ方や歴史的な背景をもととして古典に表れるものの見方や考え方を捉えて文章を練り上げ、視聴者の目を引く脚本の作成を仕組んでいく。そのためにもまず、学習課題を示し学習の流れを捉える場を設けさせる。ここでは、学習課題のゴールに向かう必然性を実感させるために、作品に現れる現代と共通するものと異なるものを問う。次に、「平家物語」の冒頭と「敦盛の最後」を読み解かせる。ここでは、平曲特有のリズムを捉えさせるために、和漢混交文の特徴を提示する。また、登場人物の人物像を捉えさせるために、行動・言動の描写に着目するよう促す。さらに、脚本づくりに取り組ませる。ここでは、相手や場面を意識させるために、必要な配慮事項を問う。また、学びの軌跡を辿って脚本に取り組ませるために、単元別の学習シートを見返すよう促す。最後に、級友の脚本を評価させ、級友との意見交流を通して活動を振り返らせる。ここでは、考えを個に返すために振り返りシートを用いる。

## 3 目標

- 現代語訳や語注などを手掛かりにして作品のあらましを掴み、描写から登場人物の心情を想像する活動を通して作品に表れたものの見方や考え方を捉えることができる。
- 作品を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、他者と交流する活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- 平家物語の文学作品としての価値を捉え、作品に表れるものの見方や考え方を踏まえて自己の脚本に取り入れて脚本を創作しようとしている。

## 4 計画 (12 時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	主な手だて (○)	評価規準
一	1 本時	<p>1 古典に表れる現代と過去とのものの見方や考え方の共通点と相違点を見出し、学習課題を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見方・考え方の異なり</li> </ul>	<p>○ 学習課題に沿って学習を進める必然性を自覚させるために、異なる時代のものの見方や考え方を基とした意見交流を促す。</p>	<p>知：現代語訳や語注を手掛かりにして、異なる時代のものの見方や考え方を捉えている。</p>
		<p>学習課題</p> <p>あなたはアニメの脚本家です。「平家物語」の敦盛の最後を今手掛けています。この場の情景を色彩豊かに鑑賞者に伝えるには、脚本家としてどのようなセリフや演出をすれば世界観が伝わるのか現代語訳をもとに考えよう。</p>		
二	6	<p>2 「平家物語」の冒頭と「敦盛の最後」を読み解く。</p> <p>(1) 和漢混交文の特有の文体とリズムを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な音読の在り方</li> </ul> <p>(2) ～ (4) 作品の歴史的背景や内容について捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平家物語の世界観</li> <li>・歴史的な背景</li> <li>・人物像の捉え</li> </ul> <p>(5) ～ (6) 登場人物の言動や行動が、話の展開にどのように関わっているのか解釈する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の転換点</li> <li>・映像化する利点</li> </ul>	<p>○ 平曲特有のリズムを捉えさせるために、「リズムに緩急がついているのはなぜか」と問い、意見交流する場を設ける。</p> <p>○ 「盛者必衰」の言葉が物語の中で平家とどのように関連付けられて表現されているか捉えさせるために、ロイロの共有ノート上に考えを表出するよう促す。</p> <p>○ 描写が場面にどのように働きかけ物語が展開しているかを見出させるために、文学的な文章における物語の転換点が果たす役割について問う。</p>	<p>知：作品の特徴を生かして朗読する活動を通して、古典の世界に親しもうとしている。</p> <p>思：登場人物の言動の意味などについて考え、多様な考えに触れることを通して、内容を解釈しようとしている。</p>
三	4	<p>3 脚本づくりに取り組む。</p> <p>(1) 脚本の制作に必要な情報を収集、整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脚本の制作の仕方</li> </ul> <p>(2) ～ (4) 脚本に最適な構成や展開を検討し、小集団で練習・推敲・添削し発表するためにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脚本構成の在り方</li> <li>・台詞の役割</li> </ul>	<p>○ 脚本を執筆する際には、相手意識が大切だと実感させるために、四人グループの一人一人に初めて読む別の物語の一節を渡す。</p> <p>○ 学びの軌跡を辿って脚本の執筆活動に取り組ませるために、単元別の学習シートを見返すよう促す。</p>	<p>態：脚本を何度も見返し推敲することを通して、物語に最適な台詞を見出そうとしている。</p>
四	1	<p>4 級友の脚本を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞の在り方</li> </ul>	<p>○ 学習の前後での古典の世界に対する印象がどのように変化したか実感させるために、学習の前後での比較を促し、学習シートに記録させる。</p>	<p>態：多様な他者の発表を聞き、評価する活動を通して、今後の古典の学習つなげようとしている。</p>

5 本時 令和4年11月10日(木) 第4校時 計画 第一次1 2年1組教室にて

(1) 主眼

- 「敦盛の最後」を読み、文章の描写を基に敦盛の台詞を創作し、話し合う活動を通して、根拠を明確にして、現代と共通するものと異なるものに気付き捉えることができる。

(2) 準備

- ①アニメ版「平家物語」 ②DVDプレイヤー ③クラウド上の意見交流シート ④電子黒板
- ⑤単元学習シート

(3) 過程 I…コンフリクト II…内化1 III…外化(内化2) IV…リフレクション

学習活動・内容	準備	段階	主な手だて(○)と評価(◇)	形態	配時
<p>1 本時のめあてを確認する。 ・場面の捉え</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 古典の世界と現代におけるものの見方や考え方を捉えよう。</p> </div>	① ②	I	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 物語の展開から自己が持つ武士のイメージを表出させるために、アニメ版「平家物語」の「敦盛の最後」の一場面を提示し、「どのような台詞を言っていたのか」と問う。</li> <li>○ 学習の見通しをもたせるために、めあてを提示する。</li> </ul>	一斉 ↓ 個	7
<p>2 「敦盛の最後」を読み、場面を把握し、叙述を基に台詞を創作し、記述する。 ・敦盛の台詞</p>	③	II	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 視聴した場面を把握させるために、「敦盛の最後」の現代語訳を読ませ、「どの場面であったか」と問う。</li> <li>○ 導入で敦盛が言っていた台詞の「ただ、とくとく首をとれ。」の後にはどのような台詞がくるのかを前後の文章から創作させ、端末上の意見交流シートに記録させる。</li> </ul>	一斉 ↓ 個	13
<p>3 創作した台詞をもとに、意見交流をし、自己の考えと比較する。 ・叙述を基に作品を読む意義 ・意見交流の視点</p>	④	III	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 古典に表れる現代と過去とのものの見方や考え方の共通点や相違点を捉えさせるために、記述した考えをもとに意見交流をさせる。</li> <li>○ 小集団でクラウド上の意見交流シートに集約したものを学級全体に提示し、発表するよう促す。</li> </ul>	個 ↓ 小集団 ↓ 一斉	20
<p>4 作品における共通することと異なるものを、根拠を明確にして整理し、本時の学習過程を振り返る。 ・イメージではなく叙述を基に物語を読む必然性</p>	⑤	IV	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習を通して得た気づきを実感させるために、「作品を読んで意見交流をしたことと、長い年月を経てもなお現代と共通すること、現代とは大きく異なることはなにか」と問い、記述するよう促す。</li> </ul>	一斉 ↓ 個	10
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>学習課題 あなたはアニメの脚本家です。「平家物語」の「敦盛の最後」の場面を今手掛けています。この物語を知らない人にも場の情景を色彩豊かに視聴者に伝えるには、脚本家としてどのようなセリフや演出をすれば世界観が伝わるのか現代語訳をもとに脚本を制作しよう。</p> </div>					
			◇ 文章の描写を基に現代と共通するものと異なるものに気付き、根拠を明確にして、具体的に記述することができたか。 ＜学習プリント分析、様相観察＞		

## 1 単元 「人生の先輩として格言を残そう」

## 2 指導観

- 〇 千四百年近くにわたる我が国の歴史を紡いできた元号は、国内外の様々な古典からの引用によって定められている。古典の一節から引用された元号は時代を象徴し、人々に親しまれてきた。古典に親しみ、その一節を深々と味わうことの価値は、千四百年経っても色褪せることはない。

本単元は、『論語』から格言としてふさわしい一節を引用し、小学生へ贈る活動を通して、現代に通じる『論語』の見方や考え方を捉え、『論語』をはじめとする古典へ親しもうとする態度を育成することをねらいとする。また、格言を筆ペンで書く活動を通して、文字の伝達性を踏まえて書体を選択できるようになることも併せてねらうものとする。学習内容としては、『論語』の歴史的背景、『論語』に現れる孔子の考え方と現代とのつながり、文字の伝達性などがある。このような学習内容から、生徒は『論語』が現代の道徳的な考え方の根幹を支えていることを知り、『論語』を通して孔子の考え方に触れることの価値を実感することができる。また、様々な書体の中から、読み手に合わせて適切な書体を選択し、丁寧な書字を行う態度を育成することもできる。したがって、本単元を学習することは、古典作品へ親しもうとする態度を育んだり、読み手への意識を前提とした書字を行う技能を養ったりすることができるという点において、大変意義深い。

個人情報保護のため、  
生徒観は省略しています。

- 〇 本単元の指導にあたっては、「附属福岡小中学校の最上級生として、『論語』を使って小学六年生に格言を残しなさい。」という学習課題を設定し、常に読み手に対する意識をもちながら格言としてふさわしい一節を引用させ、古典作品へ親しもうとする態度を育成したい。併せて、筆ペンを使ってカードを作成する活動を通して、文字の伝達性をふまえて書体を選択する力も養いたい。そのためまず、学習課題達成のための方略を見出させ、論語について説明する。ここでは、格言を送る小学生の姿を具体的に想起させるために、異なる出身小学校の経験を基にした意見交流を促す。次に、『論語』の解釈を示し、学習課題にふさわしい一節を選択させる。ここでは、『論語』を紹介し、歴史的背景を把握させた上で、『論語』の代表的な一節の解釈を示す。また、『論語』に関わる複数の資料を提示し、引用する一節の候補を選択させていく。さらに、選択した『論語』の言葉に添える言葉を書かせる。ここでは、自分が伝えたい思いと、格言を読む人の視点を整理させる。また、書き上げた格言の下書きについて下級生からの意見をもらい、添える言葉を修正する時間を設定する。最後に、下書きを元に、筆ペンで清書させる。ここでは、読み手を意識した書体の在り方を捉えさせるために小学校と中学校の教科書を提示した上で、比較を促す。

## 3 目標

- 〇 読み手を想定し、適切な一節を『論語』から引用することができる。また、文字の伝達性をふまえて、読み手に合わせた書体で書字を行うことができる。
- 〇 『論語』にあらわれるものの見方や考え方を捉え、格言に添える言葉を吟味し、読み手に合わせて書くことができる。
- 〇 学習課題達成に向けた方略を明確に定め、読み手に併せてよりよい成果物を制作しようとする。

4 計 画 (14 時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	主な手だて (○)	評価規準
一	1	<p>1 学習課題達成のための方略を見出し、論語について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な格言と、その効果</li> </ul>	<p>○ 格言を送る小学生の姿を具体的に想起させるために、異なる出身小学校の経験に基づいた意見交流を促す。</p>	<p>態：格言を残す対象の姿を想起し、学習課題達成のための方略を見出そうとしている。</p>
		<p>学習課題 附属福岡小中学校の最上級生として、『論語』を使って小学六年生に格言を残しなさい。</p>		
二	7	<p>2 『論語』を読み解き、学習課題にふさわしい一節を選択する。</p> <p>(1) 歴史的背景を把握し、『論語』の一部を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『論語』の歴史的背景</li> <li>・孔子の人物像</li> </ul> <p>(2)～(4) 漢文の訓読について復習し、『論語』の一節の解釈を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文の訓読の方法</li> </ul>	<p>○ 協働の学びの中で『我十有五にして…』の一節の解釈を掘り下げて検討させるために、〈内化1〉の段階で班の四人に種類の異なる資料をそれぞれ配付し、〈外化〉の段階では異なる資料の共通点について議論する場を設ける。</p>	<p>知：『論語』の歴史的背景を把握し、作品の魅力と関連付けて整理している。</p>
	本時 6/7	<p>(5)～(7) 『論語』に関わる複数の資料を読み比べ、引用する一節を選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引用する際の、読み手に対する意識をふまえた視点</li> </ul>	<p>○ 読み手の視点をふまえて『論語』から適切に引用する視点を見出させるために、小学6年生に対して事前に行ったアンケート調査の結果を提示する。</p>	<p>知：読み手の視点に立って、『論語』から適切な一節を引用している。</p>
三	4	<p>3 選択した『論語』の格言に添える言葉を書く。</p> <p>(1)～(2) 自分が伝えたい思いと、格言を読む人の視点を整理して、言葉を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の一節を選んだ意図</li> </ul> <p>(3) 書き上げた言葉の下書きについて中学一年生からの意見をもらい、言葉を修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手の視点</li> </ul> <p>(4) 小学生や級友の意見をもとに推敲を進め、下書きを完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生からみた『論語』の捉え</li> </ul>	<p>○ 格言を読む人の視点を捉えさせるために、〈コンフリクト〉の段階で、社会人向けの格言を提示し、その印象を問う。</p> <p>○ 書き上げた格言と、添える言葉の下書きを、読み手の視点に立って修正させるために、年齢が近い中学一年生による感想を提示する。</p> <p>○ 『論語』に対する印象の変化を自覚させるために、振り返りを蓄積した単元学習シートに『『論語』の魅力』について記述させる。その際、小学生からの意見を再提示する。</p>	<p>態：小学生を含む読み手の視点に立って文章を書こうとしている。</p> <p>思（書）：小学生の多様な考えを参考にして、自分の考えが伝わるような構成で書いている。</p>
四	2	<p>4 完成した下書きを元に、筆ペンで清書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の伝達性</li> <li>・読み手を意識した書体</li> </ul>	<p>○ 読み手を意識した書体の在り方を捉えさせるために、小学校と中学校の教科書を提示し、比較を促す。</p>	<p>知：読み手の立場を意識して書体を選択し、効果的に文字を書くことができる。</p>

5 本 時 令和4年11月10日(木) 第3校時 計画 第二次の6 3年1組教室にて

(1) 主 眼

○ 教師が選択した三つの引用から一つを選択する活動を通して、読み手の視点に立つことの必要性を捉え、理由を明確にして『論語』から学習課題に沿った一節を引用することができる。

(2) 準 備

- ①本校に初めて赴任した方へのインタビュー動画 ②『論語』に関わる資料
- ③小学6年生に行ったアンケートの結果 ④クラウド上の意見交流シート
- ⑤学習課題に関わるワークシート ⑥単元学習シート

(3) 過 程 I…コンフリクト II…内化1 III…外化(内化2) IV…リフレクション

学習活動・内容	準備	段階	主な手だて(○)と評価(◇)	形態	配時
(前時) 班で引用する論語の一節の候補を選び、選ぶ理由を書く。		II	○ 学習課題に適した一節を選択させるために、複数の書籍を班に提示し、様々な一節を比較させながら選ぶよう促す。	個	
1 格言を贈る相手の考え方を知る必要性について吟味し、めあてを把握する。 ・格言を贈る相手の考え方を知る必要性 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">めあて 格言として『論語』から引用する一節を絞ろう。</div>	①	I	○ 格言を贈る相手の考え方を知る必要性を実感させるために、相手の実態に応じていない格言を敢えて提示する。	斉 ↓ ペア	10
2 格言を贈る相手の状態をふまえて、教師が引用した三つの引用から一つを選ぶ。 ・引用する際の、読み手に対する意識をふまえた視点	②	II III	○ 学習課題を達成するためには読み手の視点に立つ必要があることを実感させるために、教師が本校に初めて赴任した方がどのような思いを抱いているのか、インタビューしたものを提示する。 ○ 自身の考えと他者の考えの違いを明確に捉えさせるために、自身が選択した一節とその理由を色分けして意思表示させる。 ○ 『論語』から引用する際に読み手をふまえた視点が必要であることを実感させるために、導入のインタビュー原稿を再度提示する。	個 ↓ 斉	10
3 小学生の視点をふまえて、班で『論語』から引用する一節の候補を決める。 ・小学生の考え方	③ ④ ⑤		○ 読み手の視点をふまえて『論語』から適切に引用する視点を見出させるために、小学6年生に対して事前に行ったアンケート調査の結果を提示する。このアンケート調査は「日々の生活で困っていること」や「中学校生活に向けた不安や期待」等を列挙させたものを用いる。	個 ↓ 横 ↓ 個	20
4 引用した一節と、その一節を選んだ理由を整理し、本時の学習を振り返る。 ・現代において『論語』を読む必然性	⑥	IV	○ 『論語』にあらわれる孔子の考え方と現代との関わりに着目させるために、クラウド上に蓄積している学習履歴(単元学習シート)を参照させ、本時で学んだことを上書きさせる。 ◇ 今回の学習課題に適する一節を『論語』から引用し、読み手の視点に立って、その理由を具体的に記述することができたか。  <学習プリント分析>	個	10